



2020～2021年度
一般社団法人日本ライオンズ アラート全体会議（第1回）
次 第

日時：2020年11月27日（火）14:00～17:00

会場：東天紅上野本店

司会：MD330アラート委員 L 阿久津 隆文

- 1 開 会 アラート委員会アドバイザー L 柿原 勝彦
- 2 国歌(君が代) 並びにライオンズヒム斉唱
- 3 出席者の紹介 西日本統括リーダー L 坂本 恵一
- 4 理事長挨拶 一般社団法人日本ライオンズ理事長 L 識名 安信
- 5 委員長挨拶 アラート委員長 L 森川 明治郎
- 6 配布資料の確認 MD330アラート委員 L 阿久津 隆文
- 7 記録者指名 MD330運営・プロトコール委員会委員 L 海野 剛
MD330運営・プロトコール委員会委員 L 浅海 弘和
- 8 審議及び報告 議長：アラート委員長 L 森川 明治郎
 - (a) 日本ライオンズアラート活動の現在までの取組について L 柿原 勝彦
 - (b) 社会福祉協議会との協定について L 柿原 勝彦
 - (c) 2020-2021年度全国アラートフォーラム開催について L 橋本 修一
 - (d) 第5会則地域204地区（グアム）コロナウイルス感染抑止支援事業報告 L 森川 明治郎
 - (e) （一社）日本ライオンズ緊急アラート災害支援運営規則について L 森川 明治郎
 - (f) （一社）日本ライオンズアラート委員会組織構成について L 森川 明治郎
 - (g) その他

《休 憩》

- 9 ディスカッション 議長：アラート委員長 L 森川 明治郎
 - i （一社）日本ライオンズ アラート災害支援体制の構築について
 - (a. 課題・問題点の想起（優先順位）
 - (b. 解決手段と新たな取り組み
 - (c. その他
- 9 総 評 一般社団法人日本ライオンズ専務理事 L 藤川 清幸
- 10 事務連絡 L 阿久津 隆文
- 11 閉 会 東日本統括リーダー L 橋本 修一

2020-21
日本ライオンズ・アラート全体会議 出席者名簿

2020.11.25現在

◎日時: 2020年11月27日(金)14:00-17:00 (懇親会 17:15-19:00)

◎場所: 集合会場(上野・東天紅)及び リモート・アクセス(ZOOM)

一般社団法人日本ライオンズ(2019-20) 理事長	巖 名 安 信	(337-D)	
アラート委員会委員長 (2020-21 MD330議長)	森 川 明 治 郎	(330-C)	
アドバイザー (MD335元議長)	柿 原 勝 彦	(335-B)	
MD330 アラート委員 (2020-21)	阿 久 津 隆 文	(330-A)	
MD331 アラート委員 (2020-21)	渡 辺 修	(331-A)	WEB
MD332 アラート委員 (2020-21)	久 保 田 善 九 郎	(332-D)	
MD333 アラート委員 (2020-21 MD333議長)	岩 橋 貴	(333-B)	
MD334 アラート委員 (2020-21)	荒 尾 勝 彦	(334-D)	欠席
MD335 アラート委員(2020-21)	佐 々 木 健 太	(335-B)	
MD336 アラート委員(2020-21)	高 岡 英 治	(336-A)	
MD337 アラート委員(2020-21)	小 瀧 孝	(337-C)	欠席
東日本統括リーダー(2020-21)	橋 本 修 一	(332-D)	
西日本統括リーダー(2020-21)	坂 本 恵 市	(335-B)	
MD330班長	野 村 起 成	(330-A)	
MD331班長	能 澤 正 明	(331-A)	WEB
MD332班長	山 下 皇 美	(332-E)	WEB
MD333班長	大 高 留 靖	(333-E)	WEB
MD334班長	西 村 和 之	(334-D)	
MD335班長	藤 之 原 美 津 子	(335-A)	
MD336班長	藤 井 信 英	(336-B)	WEB
MD337班長	青 木 和 彦	(337-D)	
一般社団法人日本ライオンズ 副理事長	伊 藤 明 彦	(332-E)	WEB
一般社団法人日本ライオンズ 副理事長	仁 科 良 三	(334-E)	WEB
一般社団法人日本ライオンズ 副理事長	石 原 英 司	(330-B)	
一般社団法人日本ライオンズ 専務理事	藤 川 清 幸	(333-D)	
日本ライオンズ事務総長 (MD330元議長)	青 原 雅 雄	(330-A)	

日本ライオンズ・アラート委員会活動報告 (2019.7~2020.6)

一般社団法人日本ライオンズにおいて一昨年新設されたアラート委員会は昨年 10 月 18 日午後から日本ライオンズ事務所に於いて識名安信理事長、石原英司副理事長、藤川清幸専務理事、小林 聡アラート委員長、柿原勝彦アラート委員会アドバイザー並びに各地区から選出された 8 名のアラート委員と伊賀保夫、菅野文吉のオブザーバー、菅原雅雄事務総長らが参加して第 1 回アラート委員会が開催され冒頭、識名理事長から「私は沖縄・石垣島の出身なので小さい時から台風の時には外に出ないという事を皆が常日頃から心がけています」「昨今、我が国ではとんでもない風水害が多発していますが昨年立ち上げたアラート委員会がやっと本格的に起動する事に成りました。お互い英知を出し合いライオンズとして自然災害において意義ある支援活動が出来る事を願っています」との挨拶があり、各委員からは地域ごとの被災報告や災害支援の状況などが報告され、多発する自然災害に於いて我々ライオンズは「いざ・・・の時」に「何をするのか・・・」「何をすべきか・・・」などが協議され、我々ライオンズは自然災害発生時に於いては被災地で活動する災害支援ボランティアに対する後方支援として、行政・自衛隊・警察・消防・各自治体などでは手の届かない部分、カバーできない所を各地域の社会福祉協会と協定を結び情報を取り合い連携する事が災害支援活動の基本と考え、ライオンズクラブの「行動力・決断力・組織力」をもって被災地の一日も早い緊急支援と復興に寄与すべく、LCIF 災害援助金とは別に日本ライオンズ・アラート委員会としての口座を開設し各地からの支援金の流れを一本化し資金の透明性を図る。そして全国 35 準地区にアラート委員会を設置して貰う事など貴重な意見が提案され、その後台風 19 号の被災地支援に付いても協議を重ね今年 6 月頃まで Web 会議も含めて 9 回の会議をもってアラート委員会の一つ一つの取り組みが明らかになって今後の委員会活動の指針と方向性が明確に成って参りました。

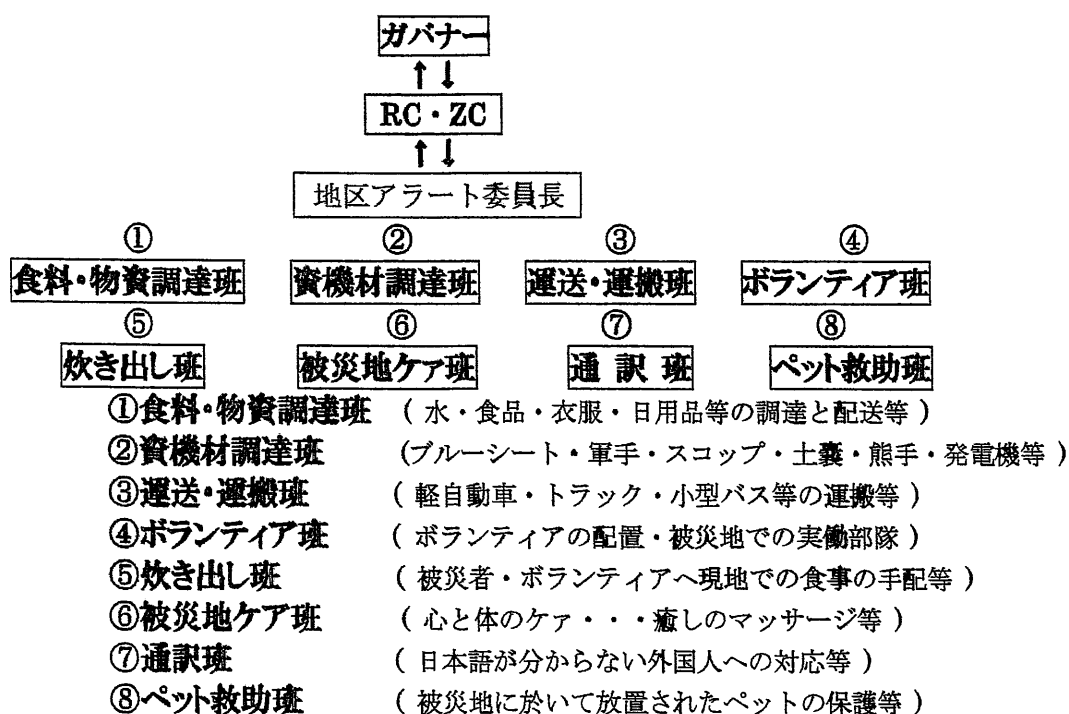
【日本ライオンズ・アラート委員会の取り組み】に付いて

- ◆(一社)日本ライオンズ・アラート委員会は理事長, 副理事長, 専務理事, 事務総長, アラート委員長、アドバイザー、全国 8 複合地域から選出されたアラート委員、並びにアラートチーム(実働部隊) 東・西各統括リーダー、8 名のアラートチーム班長をもって構成する。
- ◆各準地区に於いて活動できるアラートチームを組織して頂き、地区ガバナーと地区アラート委員長が中心となって日本ライオンズ・アラート委員会とも連携を図り、有事の際には速やかに被災地への支援が出来る体制を備え適切な活動と指揮を執れる様に務めて貰う。
- ◆有事の際には被災地区との調整役となり、社会福祉協議会とも連絡を取り合いながら、状況によってはアラートチームメンバー(実働部隊)が被災地へ出向き、当該地区のガバナー及びアラート委員長と共に緊急支援計画を策定し敏速に初動の支援活動を実施する。また復興支援においては複合地区、各準地区、各クラブからの支援活動をサポートする事に努める。

【準地区アラート委員会の取り組み】に付いて

- ◆全国の各準地区にアラート委員会を設置しアラートチーム（災害支援活動に於いて実働できる有志メンバー）への参加を募り名簿を作成し有事の時には支援力と受援力を高められる様に務めて貰う。
- ◆いつ、どこで何が起こるか分からない自然災害に備えて、複合レベル、準地区レベル、またクラブレベルで各地域の社会福祉協議会と災害支援協定を結び、有事における情報の共有と的確な初動活動が出来る体制を整えて貰う。
【日本ライオンズは全国社会福祉協議会と災害支援協定書を締結している。】
- ◆災害時に於いては、被災情報を集約して、災害ボランティアを受け入れる当該地域の社会福祉協議会とも連携を取り合い、災害支援ボランティアへの後方支援を担う事により被災地支援活動と復興に大きく貢献できる物として、ライオンズクラブの社会的認知度の向上に繋がる様に務めて貰う。
- ◆各クラブ、準地区、複合地区において緊急災害支援金（アラート準備金）を備蓄して置き有事の時にはそれぞれのクラブ会長、地区ガバナー、協議会議長などの権限で即時に拠出できる様に取り決めて置く。
- ◆全ての複合地域、準地区に於いては有事に備えて平時よりアラート、危機管理に関するセミナーや勉強会を広く市民も交えて積極的に開催して、アラート活動に付いての理解を深め、同時に災害支援や受援力と言った災害時における実践力を高める様に務めて貰う。
- ◆アラート活動への理解を深めるために、全てのメンバーを対象とした全日本アラートフォーラムを複合地区で主催する（8 複合地区輪番制）出来れば東西毎に・・。

【準地区に於いてのアラートチーム組織図の事例】



日本ライオンズ・アラート委員会「緊急支援金」 運用に関するガイドライン

一般的基準

- ◆有事の際には当該被災地の地区ガバナー、社会福祉協議会からの的確な情報を基に速やかに日本ライオンズ理事長、アラート委員会によって「〇〇被災地緊急支援会議」を開催し、アラート委員長が議長を務める。
会議の都度、議事録を作成し日本ライオンズ理事会に報告する。

- ★緊急支援金運用に付いては「日本ライオンズ・アラート委員会」において協議・審議し支援の為の資金を運用出来る様に努める。
- ★資金管理責任者はアラート委員長が務める。
- ★緊急を要する場合はアラート委員長が理事長の承認を得て即座に実行する事が出来る。（理事会へは事後報告とする）
- ★緊急支援金に付いの審議には、その際の判断材料として受益者数、コミュニティにおけるニーズ、ライオンズクラブの知名度を高める効果、維持管理の予定、設置後ライオンズクラブとの活動とどう関与するか・・・？ 価格が適正か否か・・・？ などを申請の焦点とする。

【 緊急支援金の定義 】

全国各地で発生する災害に於いて、被災地の救済を目的とした緊急を要する支援活動を実施するための資金で有り、復興支援の為の資金とは一線を画するものとし「日本ライオンズ・アラート委員会」が管理、運用する。

「緊急支援金」の拠出要件

- ①拠出の対象としては被災者への直接支援、及び災害ボランティアへの後方支援に関わるものであることを原則とする。
- ②当支援金を拠出する期間の制限を日本ライオンズ・アラート委員会が判定した災害レベルに準じて以下の通り定める。
 - ★レベル1：（ゾーン又はリジョンで対応） 発災後3ヶ月間
 - ★レベル2：（準地区又は複合地区で対応） 発災後6ヶ月間
 - ★レベル3：（東西各エリア又は全日本で対応） 発災後1年間
- ③緊急支援金の「指定」がある資金については、その全額を速やかに指定された地区、クラブ等に拠出する。
- ④「無指定」の資金については、拠出先の選定、及びその運用方法を日本ライオンズ・アラート委員会に委ねられたものとし、当委員会がこれを決定する。
- ⑤余剰資金については、将来の災害に備えるための「緊急支援準備金」として日本ライオンズ・アラート委員会が管理する。
- ⑥社会福祉協議会を除き、ライオンズクラブ以外のあらゆる組織・団体・法人等に対する拠出は認めない。

「緊急支援金」の使途

- ①災害発生時、情報収集及び被災地区や社会福祉協議会との調整などのために日本ライオンズ・アラート委員会が必要と認めた当委員会のメンバーによる先遣隊の派遣費用。
(旅費交通費(レンタカー費、燃料費等含む)及び宿泊費を基本とし飲食費用は認めない物とする。)
- ②日本ライオンズ・アラート委員会が計画し実行する緊急災害支援活動に必要な費用。
(想定される災害に備え必要と思われる備蓄物資、または資機材の購入費用を含む)
- ③日本ライオンズ・アラート委員会が認めた 複合地区・準地区・リジョン・ゾーン・クラブが実施する緊急災害支援活動に対す助成費用に付いては事前報告制とする。
- ④社会福祉協議会との災害協定の内容に基づく費用。

「報告事項」

- ◆支援事業が終了した際にはアラート委員長、アドバイザー、東・西各アラートチームリーダーと日本ライオンズより2名の監査人を交えて事業報告書と完全な会計報告書を責任持って作成し各自、署名捺印して報告する。
- ◆支援事業が終了した際には、日本ライオンズ理事会に事業報告と資金使用に関する会計報告をし総会に於いても同上の報告をする事とする。

災害時に備えての心得

- ◆家族の繋がりを確保しておく「171」伝言サービス等の知識を持って置く。
- ◆災害時に備えて、各地域に於いてコミュニティーの結束を強化して「地域に於いてのハザードマップ・防災計画を共有出来る様にして置く・・・。
- ◆個人・会社にも於いても防災への強靱化を図る様に努める・・・。
- ◆災害時に備えて育児の食べ物を備蓄して置く(幼児、6歳以下の子供たちが常に食べているものを用意して置く)
- ◆阪神・淡路大震災では多くの人が「隣の人に助けられた」との声が多かった・・・。
- ◆常に万全の備えをして置き、有事の際は「助ける側に立つ」という心構えが必要。

南海トラフ地震・津波情報

- ◆日本全体で500兆円程の損害が出ると言われています。
- ◆今まで人類が経験したことのない事態に成るとも言われています。
- ◆日本列島の沿岸添いでは「ブラックアウト」に成り電気は勿論ライフラインが不能になる。
- ◆大阪、名古屋、東海、四国、九州では10m～40mの津波が発生すると言われています。

「アラート委員会の役割」

我々ライオンズは一人では出来ない事を「Weの力」をもって「世の為人の為」に尽くすというのが基本理念です。多発する自然災害やウイルスなどの緊急事態において「俺が・俺が…」と言った「我情我欲の立ち振る舞いは 謹んで…」 私たちの行いが被災者の皆さんの心に響く、人間味あふれる支援活動をするのが我々の使命では無いかと思います…あくまでも「縁の下の行い」として…。私たちはそんな緊急支援と復興復旧支援をライオンズの「Weの力」を持って行動し相互理解と友愛の精神の下、覚悟を持って取り組んで行きたいものです。ライオンズの誇りを持って…。

末筆に成りましたが昨年度日本ライオンズ・アラート委員会として取り組んできた「活動報告」「委員会の取り組み」「準地区での取り組み」「緊急支援金運用に関するガイドライン」等々資料としてまとめました。日本ライオンズ・アラート委員会は起動したばかりですが、昨年築き上げてきた数々の課題を糧にして今期、森川明次郎委員長の下、日本ライオンズ・アラート委員会として、その「行動力・決断力・組織力」をもって被災地の日も早い緊急支援と復興に努める為に、お互い英知を出し合いライオンズとして自然災害においての意義ある支援活動が出来る事を願っておりますのでメンバー各位のより一層のご理解とご協力をお願い致します。

2020年11月27日

(一社)日本ライオンズ・アラート委員会
アドバイザー 柿原勝彦
(2017～2018MD335PCC)